

くえいっしょ 俱会一処

多田大樹(法務員)



多田大樹法務員

皆さまこんにちは。今この原稿を書いている時は、外は白い雪がちらちらと舞っていて、今年一番の寒さだそうです。暦の上では、一日一日春の足音が近づいています。まだまだ寒い日が続きそうですね。

昨年は、日本国内においても海外でも「災」の字が表す様に、地震、台風、津波などさまざまな災害がありました。被災地の方々には、一日も早い復興を心より願っています。かくいう私にも、昨年は私

にとつての人生の上でも一番といえる出来事がありました。それは父の死でありました。私が僧籍をいただいて僧侶となることを一番に応援してくれた父の死は、たとえ平日頃から人生無常の理を聴かせて頂いていても本當につらくさびしいことでありました。父の死を電話で西教寺に報告する時も、気丈にふるまおうと思つていても、院主様の声を聞くと涙があふれてきて、後の言葉が続かなくなりました。そんな私に葬儀の当日には、西教寺一同として弔電が届けられ、その文面には「ご尊父のご往生お悔やみ申し上げます。俱会一処の世界のあることを今更の如くありがたく思うことです」と記されていました。

らいご縁のなかで今一度会える世界があるんだと思ひ起こさせて頂ける、本當にたのしく思えるお言葉を頂いたことを、今更ながらありがたく味あわせていただいています。そして、その送り主の名前が西教寺一同となつていた事が、何よりもありがたく葬儀の院主様や坊守様そしてお念仏に結ばれたお同行の一人一人の顔が思い描かれ、私はどんな時でも一人ではないんだ、皆さまのおかげで生かされているんだと味わえることであります。

最後にご法座の中で「何事も何事も念仏の助縁と思つべし」という言葉を聴かせていただいて、父の死も、また私にとつて尊いご縁なんだと改めて深く味あわせていただきまし

た。皆さまの暖かいお心を深く喜ばせて頂いています。

合掌

広島真宗カウンセリング学習会 ミニカウンセリング自主学習会

みみずくの会が発足



第一回みみずくの会の様子

現在、広島真宗カウンセリング学習会は、一泊二日の研修会を年二回のペースで行っています。カウンセリングは「相談」という意味。それと真宗とがどう関係するのにも気になるところですが、それはそれとして、前回の学習会では「ミニカウンセリング」について勉強しました。参加者が二人一組になつてカウンセラー(聞き役)とクライアント(話し役)となり、一回十五分間の模擬相談を行うのです。気持ち

ちの表現である「話し方」や「聞き方」の基礎練習です。気持ちを上手に表現したり、ありのままに受け取ったりするのは、「継続した練習が大切」(講師の松岡宗淳先生)らしく、研修会終了後、参加者から「月に一度のペースで練習しよう」という声が上がりました。そして、なんと参加者主体の自主勉強会「みみずくの会」(事務局||広島智子さん)が発足しました。

係なんかさっぱり見当もつかない方も多いことと思ひますが、私(編集者は、要は「気持ち」を聞きあう練習)だと考えています。ご関心がある方、ごいっしょにどうぞ。